

## ■ 表現学部【2019年度入学者用】

### 一 ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

表現学部では、知識・技能、思考・判断・表現、関心・意欲・態度の項目において、学科において学位授与方針を定めています。このことは、本学の教育ビジョン・建学の精神である「智慧と慈悲の実践」にもとづきながら、「4つの人となる」（「慈悲」・「自灯明」・「中道」・「共生」の人となる）という言葉の中にその基本的精神および願いとして表現されています。課題を積極的に他者と協働しながら解決し、社会に還元する能力・資質を備えた学生に学位を授与します。

### 一 カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本学の教育ビジョンである「4つの人となる」を実現するために、幅広い教養と学びの技法を身につけるための共通教育科目である「第Ⅰ類科目」、学科の専門教育科目である「第Ⅱ類科目」、資格取得とキャリア形成に関する「第Ⅲ類科目」を設置し、初年次から卒業までに学ぶ諸科目を有機的に連携・接続させた教育課程を編成しています。

表現学部においては現代的・社会的ニーズに対応した表現の各領域の専門的知識や技能を身につけさせることも目標としています。みずからの内にある創作意欲や表現意欲を形にするための手段（技術）を身につけると同時に、その裏にある理論をしっかりと学びとることができ、その結果として社会貢献できるような人物を育成することを目標としています。各専門分野の知識・技能を身につけ、生涯学び続けていく意欲と関心を養うために、ワークショップや専門別のゼミナールを中心としたカリキュラム編成を行っています。

### 一 アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

本学では、本学の教育ビジョンである「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成することを目指し、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成し、社会に送り出すことを教育目標としています。そのため本学は、以下の資質・能力を備えた学生を受け入れるため、多様な選抜方法により、多面的・総合的な評価を行います。

表現学部においては、国語、地理歴史、公民、外国語について高等学校卒業相当の知識と技能を有し、学びを通して社会に積極的に関わっていこうとする意欲がある、資質・能力を備えた学生を求めます。

## ■ 表現文化学科【2019年度入学者用】

### 一 ディプロマ・ポリシー (DP)

表現文化学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成するために、表現文化学科の教育課程を修了し、以下の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

<b>知識・技能</b>	① 現代の国際社会・日本社会における今後の変化を生き抜くための教養と知的技能を有し、表現文化に関する専門知識、表現文化を体系的に理解できる。 ② 専門課程で学ぶプロフェッショナルな技能により、自分を表現する方法を持ち、社会に向けて、自らの考えを発信できる。 ③ 自ら設定した表現課題（文芸、編集、放送、映像、デジタル表現、エンターテインメント、表現ビジネス）の知的領域の表現方法を理解し、構想することができる。
<b>思考・判断・表現</b>	④ 問題を自ら発見し、クリエイティブな思考、判断をすることができる。 ⑤ 多様な価値観を理解し、自らの意見を、論理的・創造的に再構築、表現することができる。 ⑥ メディアリテラシーと倫理に関する知識を基準にして、コミュニケーションできる。
<b>関心・意欲・態度</b>	⑦ 自らの作品や表現を、社会の発展に活かそうとする姿勢を身につけている。 ⑧ 他者の作品や表現を評価するにあたっては、クリエイターの個性を尊重する態度とともに、深く理解した上で正当な評価をしようとする姿勢を身につけている。 ⑨ 他者と協働しながら作品を創造することの喜びや有用性を知悉しており、共同作品を作成する意欲を有している。

### 一 カリキュラム・ポリシー (CP)

表現文化学科は、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、以下のカリキュラムを編成します。

<b>教育内容</b>	① 基礎科目：学生のニーズにあわせた主体的な学びをサポートするために、基礎科目にふさわしい内容の科目を配置します。専門教育理解のための単科科目を多数設け、常に学生の方向性を調査し、それにあわせて、科目内容をブラッシュアップしつづけます。 ② 専門科目：専門教育においては、各専門分野における知識・技能を体系的に修得するとともに研究方法の理解と実践を進めるため、学部共通科目、専門ゼミナールの他、選択科目として方法研究科目、応用科目などを系統的に配置します。 ③ 資格取得・キャリア形成科目：専門に合わせたカリキュラムを設置します。知的財産権管理技能者検定やビジネス著作権検定、といった資格をとり、就職の際に、自らの技術を客観的にアピールできるように配慮した科目配置になっています。 ④ ワークショップ・専門ゼミナール：専門教育においては、演習を中心としたワークショップ、あるいは
-------------	--

	<p>は、3年次・4年次に専門ゼミナールを設けています。</p> <p>⑤ 主体的に情報発信できる技術を実践的に身につけられるように、講義だけではなく、実習や作品作り、発表、プレゼンテーションを中心においた体系的なカリキュラムを編成しています。また、インターンシップ等、外部団体との連携を通じて、実際の仕事現場に立つ機会を設けています。</p>
<p><b>教育方法</b></p>	<p>① アクティブラーニング：共通教育のみならず、専門教育においても、アクティブラーニングをメインとし、他者との協働によって問題解決に取り組み、発表する機会を設けています。</p> <p>② 少人数教育：専門的な知識や技能を身につけるために、教員とのコミュニケーションを重視した小規模人数による学習集団を組織し、ワークショップやフィールドワークなどを進めています。また、卒業論文あるいは卒業制作を全学生に課すことにより、学習成果を論理的・創造的に表現し、自らの達成を確認する機会を設けています。</p> <p>③ 検証・批評の場：学生同士が互いの作品を検証し、批評し合う機会を科目ごとに設けています。作品批評や、プレゼンテーションと質疑応答、スピーチコミュニケーション、合評会をおこなうことによって、学生は、自分のパフォーマンスを他者の目を通して振り返り、自らの学修の進捗を常に確認します。</p> <p>④ 成果報告書・成果報告会：、毎年期末に、半年・一年の成果を社会に発信する機会を設けています。自分の作品を社会に発信することで履修者の精神的成長をうながす場として効果的に機能しています。</p>
<p><b>評価</b></p>	<p>① 4年間の総括的な学習成果については、全学生に課される卒業論文あるいは卒業研究・卒業制作とその発表に対して、担当教員による評価と口述試験を行い、DPで示された資質・能力の達成状況を評価します。</p> <p>② 作品づくりや表現発信については、作品を教員が評価し、改善点の指摘を行うとともに、学生間での相互評価を行います。成績をつけて終わるのではなく、学生が今後どのように成長のロードマップを描けるか、教員と学生との話し合いによるロードマップの作成と見直しを、PDCAサイクルによって実施します。</p> <p>③ 成績評価については、常に学生からの問い合わせに応じ、評価基準を開示します。</p> <p>④ 学部教育の改善については、教員FDと学生希望調査を通じて、カリキュラムアセスメントを実施し、教育課程を常に見直し、継続的に改善します。</p> <p>⑤ 卒業時には、カリキュラム改善の指標とするため、質問紙法や面接調査法を用いて学生生活全般に対する総括的評価を行い、KGIをもとにカリキュラムのPDCAサイクルを推進します。</p>

## － アドミッション・ポリシー (AP)

表現文化学科は、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、以下の資質・能力を備えた学生を求めます。

<p><b>知識・技能</b></p>	<p>① 学科の学びに必要な基礎的な知識を有している。</p> <p>② 高等学校で履修する国語、地理歴史、公民、外国語、数学の内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を修得している。</p>
---------------------	--

<b>思考・判断・ 表現</b>	<p>③ 入学を希望するコースに関連する事象に深い関心を持ち、高等学校までに学んだ知識・経験を踏まえ、自身の興味関心の有り様を、自らの言葉と視点で順序だてて説明することができる。または表現することができる。</p> <p>④ 多様な考え方を自分なりに整理し考察することができる。</p>
<b>関心・意欲・ 態度</b>	<p>⑤ クリエイターへのあこがれを持ち、表現することに、つよい意欲を持っている。</p> <p>⑥ 読む、書く、話す、聞く能力の向上や他者に伝わる表現方法の習得に意欲を持っている。</p> <p>⑦ 自分だけではなく他者の立場に立って物事を考え、配慮ある行動をする姿勢を持っている。</p> <p>⑧ 自らの学びを通して、地域や社会に積極的に関わろうという意欲を持っている。</p> <p>⑨ 文化や歴史、現代の生活、経済、国際社会にかかわる様々な問題に対して深い関心を持っている。</p> <p>⑩ 映像、放送、文字メディア、デジタルメディアなど多様なメディアから発信されるニュース・表現に積極的に接し、自分なりの見解を持つようとする意欲をもっている。</p>